

## ■ 省エネルギー部門大賞 ■

受賞者名	<b>株式会社土屋ホーム</b> 住 所：札幌市北区北9条西3丁目7 TEL：011-717-3333 URL：http://www.tsuchiyahome.jp/ <b>代表取締役社長 佐藤 孝司</b>	<b>北海道ガス株式会社</b> 住 所：札幌市中央区大通西7丁目3番地1 TEL：011-231-9511 URL：http://www.hokkaido-gas.co.jp/ <b>代表取締役社長 大槻 博</b>
	設立年月	平成20年6月

### ■ 取組内容

## ZEH基準をクリアする賃貸住宅を開発、暖房費込みの賃料で居住できる新たなビジネスモデルの構築

ZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)基準をクリアする賃貸住宅の開発により、一次消費エネルギーを約70%削減することで得られる利益を、オーナーと入居者が共有できる新たなビジネスモデルの構築による省エネの推進

### ■ 選考理由

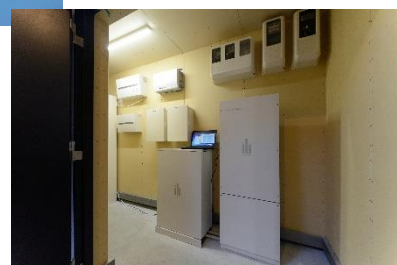
省エネルギー化の事例がごく限られた範囲にとどまっている賃貸住宅において、ZEH基準をクリアし、省エネによる利益により、暖房費込みの賃料で居住できることを可能としたビジネスモデルは、特に、積雪寒冷地である北海道において意義の大きい点が、今後の賃貸住宅における省エネの推進に、大きな貢献が見込まれるものと評価された。

モデル賃貸住宅外観



ソーラーパネル

蓄電池ユニット及び  
パワーコンディショナー



## ■ 省エネルギー部門奨励賞 ■

<b>受賞者名</b>	<b>フレックスエヌティ有限会社</b> 住 所：札幌市中央区大通西 18 丁目 2 - 12 T E L：0 1 1 - 6 4 0 - 7 3 0 7 U R L：http://www.flexnt.jp	<b>代表取締役</b> <b>高橋 照行</b>
<b>設立年月</b>	平成 8 年 7 月	

### ■ 取組内容

## 長寿命で人体に悪影響を及ぼさない 施設用次世代省エネ照明[EcoLoop]の普及

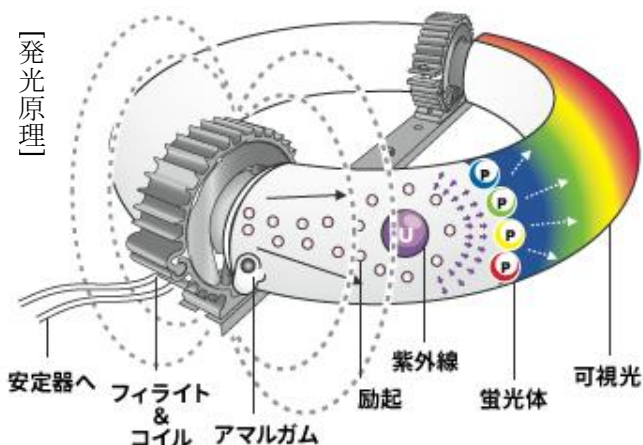
フィラメントが不要なため照度劣化が少なく、発光原理的には半永久的な寿命をもち、面発光構造で広角な発光のため水銀灯等と比較し約 2 倍の明るさで、かつブルーライトを出さないことなどから、人間の網膜や体調に悪影響を及ぼさない、施設用次世代照明[無電極照明 EcoLoop (エコループ)]の普及の取組

### ■ 選考理由

LED照明の約 2 倍という長寿命と、高天井照明の中で最も目に優しい無電極ランプの実用化を実現しており、人の網膜・体調に影響を及ぼすことがない環境を提供する点が、健康科学的に推奨される技術であり、今後の普及拡大が大いに期待されるものと高く評価された。



倉庫での導入事例



# ■ 新エネルギー部門大賞 ■

受賞者名	スフェラーパワー株式会社	代表取締役社長 井本 聡一郎
	住 所：恵庭市戸磯 385-31 TEL：0123-34-2100 URL：http://www.sphelarpower.jp/	
設立年月	平成24年5月	

## ■ 取組内容

### 微小球状太陽電池を用いた、あらゆる方向からの光をキャッチし発電するソーラーサインシステムの開発

微小球状太陽電池（直径 1.2 mm）を用いたことにより指向性が少ない発電特性とシースルー性を兼ね備えたスマートなガラスサンド型ソーラーサインシステム（S4 サインボード）を開発。自発光独立型の標識に必要な発電・充電・情報制御の機能をコンパクトかつ最小限に一体化した。

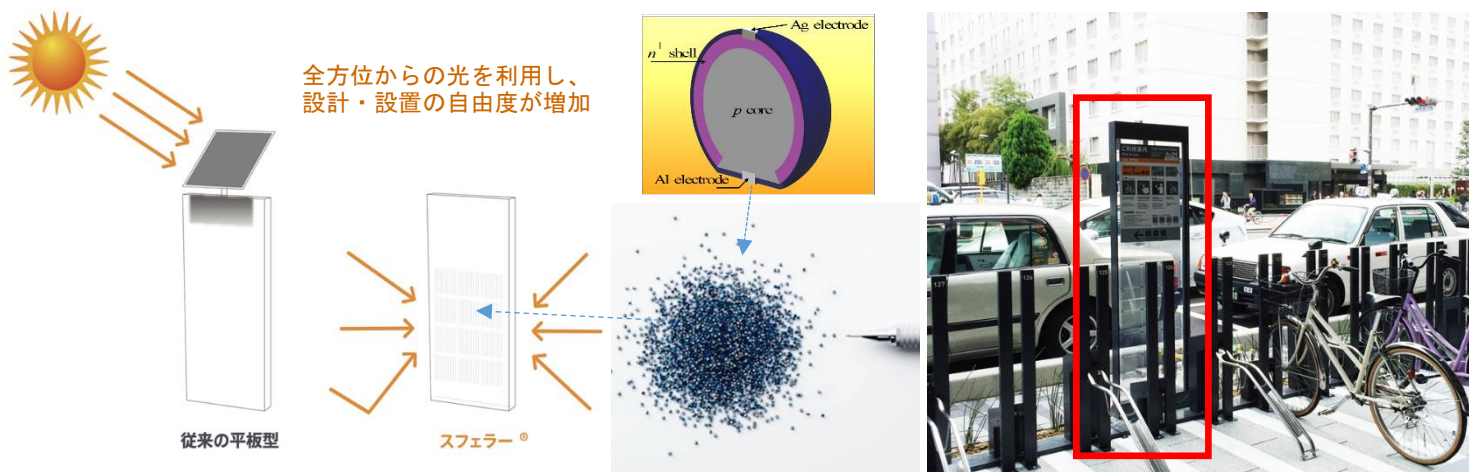
## ■ 選考理由

多方面からの太陽光をキャッチする微小球状太陽電池の開発技術の先進性及びこの特性を活かした設計により、同性能の太陽光パネルによるシステムと比較し、製品のコンパクト化を実現するとともに電源線や太陽電池パネルが不要なことなどから、コストダウンが可能な新技術として、今後の普及拡大の効果が高いものと評価された。

ガラスサンド型球状太陽電池の特徴

微小球状太陽電池

「S4 サインボード」を活用した駐輪場の状況



## ■ 新エネルギー部門奨励賞 ■

受賞者名	株式会社土谷特殊農機具製作所 住所：帯広市西21条北1丁目3番2号 TEL：0155-37-2161 URL：http://tsuchiyanoki.com/	代表取締役 土谷 紀明
設立年月	昭和23年5月	

### ■ 取組内容

## 冬季の冷気でできた氷を冷熱源として利用するアイスシェルターの「建屋型」及び「可動型」の開発

水槽に入れた水を冬季の冷気で凍らせ、春から夏に冷熱源として利用するアイスシェルターは、倉庫等の冷房用電力やCO<sub>2</sub>の大幅な削減を実現できる、クリーンかつ安全なエネルギー利用システム構築の取組

### ■ 選考理由

自然冷熱エネルギー利用のアイスシェルターの開発は、寒冷な本道の特徴を活かした環境負荷低減型の技術開発で、特に、移動可能な「可動型」の開発は、先駆的な取組で、本道農業のエネルギー消費を低減し、地球環境に優しい農業の振興が期待可能であるこの取組は、国内外の寒冷な他の地域においても、普及拡大の効果が高いものと評価された。



アイスシェルター内部の「水槽」の状況



「建屋型」

道の駅での展示（土幌町）



「可動型」